

記入日 20 年 月 日

## 1. 概要

実践団体名	崇城大学 SCB 放送局		
連絡先	※代表者または担当者の連絡先電話番号		
プランタイトル	SCB 放送局防災ラジオドラマワークショップ		
プランの対象者※1	6	対象とする 災害種別※2	1

※1 別紙「記入上の留意点」の1. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※2 別紙「記入上の留意点」の2. 項目から1つ選択し、記入してください。

## 【プランの目的・ここがポイント!】

- ・熊本地震を題材にしたラジオドラマを制作する。
- ・支援活動や防災教育に関わる方へのインタビューを通して、防災や支援に関する活動や取組みをどう広げるか? という課題解決に取り組むことで、地域の防災意識を高めることを目指す。
- ・ラジオドラマが防災意識にどのように作用するかを検証する

## 【プランの概要】

熊本地震を題材にラジオドラマの制作を行い、そのドラマが防災意識へ働きかけることが出来るかを検証する。当初予定していたプランを共有し、メンバーとの議論を通じて、目的を果たす為に効果を高めるためにどうしたら良いか? を一人一人が意識して制作を行った。

議論の結果、防災意識の向上に働きかけるためには「共感」が必要であると仮説を立てた。

さらに、共感を起こす為の具体的なアプローチとして、市民一人一人のイメージの醸成に着目し、「防災意識を高めるためにイメージを醸成するラジオドラマの活用方法」について検証した。

なお、制作したラジオドラマは、3月11日にFM桐生が企画している防災特番にて放送する予定。

## 【期待される効果・ここがおすすめ!】

- ・ラジオドラマを聴くこと／作ることによる防災意識の向上
- ・ラジオドラマの活用によって、共感とイメージの2つのキーワードに、どのように働きかけることが出来るかを検証予定。
- ・インディアナ大学の心理学者による「距離と創造性」を元に仮説を立てている。  
熊本の物語を発信する際に、物語の舞台と物語が届いた距離が遠いほど、想像力を刺激し、防災意識向上に役立つのではないかと考え、検証を試みている。



## 2. プランの年間活動記録 (2017 年)

	プランの 立案と調整	準備活動	実践活動
4月	プランについての共有 (全体)	各団体との連携	①ラジオドラマをすること ・ インタビュー ・ 制作 ②ラジオドラマを活用方法の検証の2つに整理した
5月	①ラジオドラマ制作	インタビュー先確保	ラジオドラマの制作の仕方についての検討と全体の構成等についてメンバーに説明した。
6月	①ラジオドラマ制作のインタビュー1		よかたいネットの土黒さんに支援活動を俯瞰して感じていることをヒアリングした。
7月	①ラジオドラマ制作のインタビュー②		ローカルメディア3の澤田さんへのヒアリング
8月		ヒアリング内容の整理	ヒアリング内容を整理して、全体の構成や設定について素案作り。
9月	①決定した構成に基づいて導入部分シナリオ作成		神話部分のシナリオ制作開始
10月	①神話パートのシナリオ作成		
11月	①神話パートの収録と編集		神話部分のシナリオ完成 神話部分の収録・編集・完成
12月	① 神話パートの振り返り ② ヒアリング方法検討		②について、アンケート開始
1月	①後半パートの制作		シナリオの作成
2月	①後半パートの収録と編集・全体の完成		ボイスアクション (連携団体) との収録・制作
3月	ラジオ番組での放送		株式会社 FM 桐生での防災特番での放送 (3月11日予定)

## 3. 実践したプランの内容と成果

【実践プログラム番号： \_\_\_\_\_】※3

タイトル	防災ラジオドラマの制作
実施月日（曜日）	2017年4月～2018年3月
実施場所	崇城大学 SCB 放送局キャンパススタジオ 崇城大学 SCB 放送局新市街スタジオ
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当 氏 名：小保方貴之 所属・役職等：
所要時間または「コマ数×単位時間」	ワークショップ形式は、3時間×10日 それ以外はオンラインでコミュニケーションした
プログラムのカテゴリ、形式※4	17 ラジオドラマ
活動目的※5	8
達成目標	ラジオドラマを聞いた人の防災意識の向上
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ メンバー自身の体験を振り返り防災意識の変化について考察</li> <li>・ 支援活動や防災教育に関わる方へのインタビュー</li> <li>・ ラジオドラマの制作</li> <li>・ ラジオドラマを聞いた人に防災意識の変化が出るか検証</li> </ul>
準備、使用したもの ・ 人材 ・ 道具、材料等	インタビュー対象 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生</li> <li>・ よかたいネット 土黒さん</li> <li>・ ローカルメディア3 澤田さん</li> </ul> ラジオドラマ制作 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上記+ボイスアクションスタジオ</li> </ul>
参加人数	31名
経費の総額・内訳概要	総額 14万円 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 交通宿泊費 4万円</li> <li>・ パネル制作費 4万円</li> <li>・ 雑費 1万円</li> <li>・ 機材レンタル費 5万円</li> </ul> 合計 14万円
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 防災教育に必要なのは、共感を起こすことで、そのためにはイメージネーションにどのように働きかけるか、というアプローチに可能性を示せた。</li> <li>・ ラジオドラマの制作に関わることで防災意識の向上がはかれる</li> <li>・ イメージする災害等について、物理的な距離が遠い方が防災意識の向上に寄与できる。ただし、出し方が重要であることがわかった。</li> </ul> <p>【課題】</p>



	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域内の温度差が生まれることについてはある程度は仕方ないことと割り切った方が活動を進めやすくなる。</li> <li>・ 予想と想定について、実際にヒアリングをしていくと、大きく違った点に対して、もっと早く適応できたのではないかと反省している。</li> <li>・ 震災を経験してもなお、防災や災害への準備が推進されたわけではなく、その体験の内容によって、「こんなものか」と感じる人と「こんな大変なものか」と感じる人がいることがわかり、当初はそれを揃えるために共感を目指していたが効率が悪いことに気づくのが遅れた（認めたくなかった?）。</li> <li>・ そこを切り離し、遠い地域の防災意識を高める、という方針に転換して、放送番組への提供などを実施した。</li> </ul>
<b>成果物</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①情報通信学会 100 周年記念大会参加でのパネル</li> <li>②ラジオドラマ</li> <li>③アンケート</li> </ul>

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： \_\_\_\_\_】 ※3

タイトル	
実施月日（曜日）	
実施場所	
担当者または講師	担当者・講師等の区分： 氏 名： 所属・役職等：
所要時間または 「コマ数×単位時間」	
プログラムの カテゴリ、形式※4	
活動目的※5	
達成目標	
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	
参加人数	
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	【成果】  【課題】
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。



【実践プログラム番号： \_\_\_\_\_】※3

タイトル	
実施月日（曜日）	
実施場所	
担当者または講師	担当者・講師等の区分： 氏 名： 所属・役職等：
所要時間または 「コマ数×単位時間」	
プログラムの カテゴリ、形式※4	
活動目的※5	
達成目標	
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	
参加人数	
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	【成果】  【課題】
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

## 4. 苦勞した点・工夫した点

<p><b>プランの立案 と調整で 苦勞した点 工夫した点</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ とにかく議論をしたこと。</li> <li>・ 地域に住む人＝被災者として捉えていたが、その度合いによって、皆さんが抱えている震災へのイメージが、まるで違っていて、こちらの予想や想像とはまるで違うプランニングを余儀なくされた。</li> <li>・ 最終的には、対話を通して、ドラマを作る意味や目的を改めて、整理して、共有して、意味のある活動を目指すことが出来た。</li> </ul>
<p><b>準備活動で 苦勞した点 工夫した点</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ SCB 放送局には、様々な方が集まっているので、支援活動を行うインタビューの人選などはわりとスムーズに行うことが出来た。</li> <li>・ ユニークな活動をしている人、地域の中でコネクター的な振る舞いをしている人と早い段階で連携できたことで、私達しか作れないラジオドラマ作りを目指したと考えている。</li> </ul>
<p><b>実践に 当たって 苦勞した点 工夫した点</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 時間をかけておこなったメンバー間の合意形成に苦勞をした。</li> <li>・ 震災を「こんなものか」と思う人、「こんな大変だった」と思う人、その違いはどこにあるのか、体験の度合いか、もともとの性格か、などを切り分けながらヒアリングしていくことに相当気を使った。</li> <li>・ 月に1回のペースで行ったのだが、それがかえってよかった。議論してすぐに動く、というより、思考を練る時間が必要だと感じた。</li> </ul>

## 5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 崇城大学情報学部 2 年生</li> <li>・ その他、関東地方の学生（予定）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ラジオドラマ制作</li> <li>・ アンケート</li> </ul>
保護者・ PTAの組織		
地域組織	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ローカルメディア 3</li> </ul>	インタビュー
国・地方公共団体・ 公共施設		
企業・ 産業関連の組合等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一般社団法人ボイスアクションスタジオ</li> <li>・ 株式会社 FM 桐生</li> </ul>	ドラマの制作 完成したドラマの放送
ボランティア団体・ NPO法人・NGO 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一般社団法人よか隊ネット</li> </ul>	インタビュー
職業、職能団体・ 学術組織、学会等		

## 6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

<p><b>成果として 得たこと</b></p>	<p>防災教育が広がるために、共感というキーワードを導き、共感を起こす為に、イマジネーションへ働きかける。そのためには、物理的距離を利用し、遠い地域で発信すること、その際、紹介者が語り部となり想像をかきたたせること、が、想像力へ働きかけ、共感を起こせるという可能性を示せた。 また、ドラマ自体のクオリティにも、これまでのコンテストの時に比べて、かなり作り込みができて、「共感を起こす」ということに、懸命に考えた工夫が得られたと感じている。</p>
<p><b>全体の反省・ 感想・課題</b></p>	<p>熊本地震と阿蘇地方に伝わる鯰伝説の二つを柱に、物語を固めていったのは、今後、地域の伝承などへの興味関心を促すのではないかと感じた。 実際に今回参加した学生の中で、地域の文化や歴史に強い興味を示す学生が出て来て、地域へのアイデンティティの醸成や防災意識の向上などの傾向が見えて来たのは、今後の防災教育にも寄与できると感じた。</p>
<p><b>今後の 継続予定</b></p>	<p>制作したラジオドラマとアンケートについては、放送するラジオ局の方でも興味を持っているので、メディアへの働きかけを行っていきたい。 制作して一度流して終了というより、防災教育とメディアという観点で、継続的に活用が出来ないかを検討している。</p>

## 7. 自由記述欄 ※6

※6 自由記述欄は、防災教育の実践で得られた知見、防災教育の普及に関わる提案等を盛り込んでください。また、前頁までの記述に不足した事項、参考資料、写真等を自由にご記入ください。なお、3ページ以内厳守をお願いします。

### 防災教育の普及に関わる提案

1 防災教育が地域内で一部の人たちで行われていることに対して、「どう巻き込むか？」という点に労力を使うのであれば、取組み自体を他の地域で紹介し、防災意識の芽生えや意識向上に寄与する方が、全体の底上げにつながるのではないかと感じた。

例) 防災教育の展示プログラムのようなパッケージを開発。各自治体へその展示物やイベント、パネルディスカッションなどの企画も提案し、他地域にタネを作ることを目指す。

2 防災教育にエンターテイメント性を入れることが必要だと感じた。共感というキーワードが出た時に、論理的に正しいことは理解しても、感情的にそれに関わりたいか、見てみたいか、聞いてみたい、となるかという別問題であることが議論によって明らかになり、そこから、どうやったら楽しいドラマになるか？という点において、シナリオや構成の工夫を学生たちが発言するようになったので、主体的に参加できるための「インセンティブの設計」がカギを握っていると思われる。

3 当初提案内容への自己評価をプログラムに入れた方が良いと感じた。

これは、最初にイメージして出した案の前提（私達の場合で言えば、住民＝被災者とひとくくりにしたこと）が崩れると、プランそのものに無理が生じてしまったので、途中で、計画変更等について相談したり、手続きを行ったが、団体によっては、最初の予定通りに進めることに気を取られ、地域での関係作りが難しくなるケースも考えられる。地域団体との関係を強化できる取組みなので、当初より柔軟に構えて、自己評価をしながら進めて行くことを前提とした方が良いのではないかと感じた。

(自由記述: 1/3)

A large empty rectangular box with a blue border, intended for free text entry.

(自由記述: 2/3)

A large empty rectangular box with a blue border, intended for free text entry.

(自由記述: 3/3)